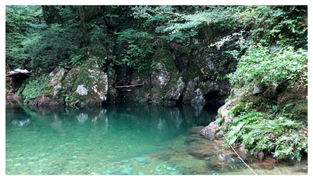
In the forest　～森の中の教室～

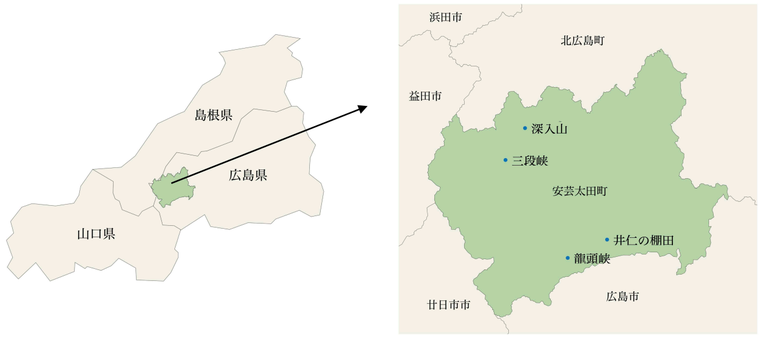
－広島県山県郡安芸太田町の自然を深化させる交流の場の提案－

Site

計画の舞台である広島県 安芸太田町は、町土の88.4%が森林で覆われた自然豊かな地域である。この町では、農業体験やリバースポーツ、森林セラピーなど自然を活かしたアクティビティが親しまれ、景観の美しい観光スポットも多く存在しているが、現在は過疎化が進行し、町の活気が失われつつある。



Map

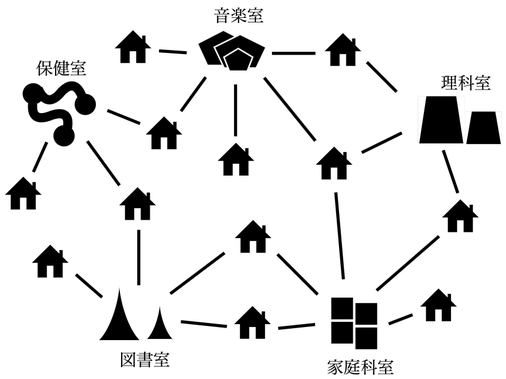


Concept

自然を感じることは自然を知り、学ぶことに等しく、豊かな森林に囲まれたこの地域はまさに”自然の学校”であるといえる。この地域の持つ最大の魅力”美しい自然”を活かし、いくつかの観光ポイントを代表に挙げ、それぞれに「A.理科室」「B.家庭科室」「C.保健室」「D.音楽室」「E.図書室」と、その場所の自然を深化させる施設”特別教室”を計画した。また、各観光スポットを巡る際の活動拠点として、安芸太田町にある既存の宿泊施設や空き家、民泊などをリフォーム等により有効利用し、自然の学校における”教室”となる宿泊システムの計画を行なった。

01 活動拠点となる宿泊システム”教室”

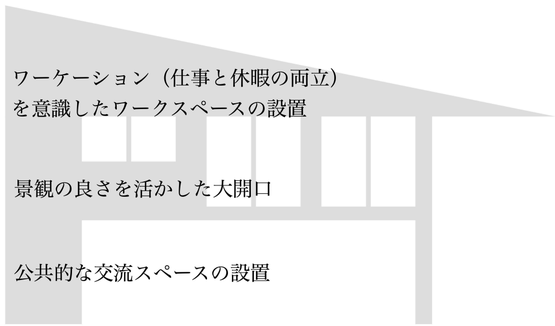
活動拠点”教室”と観光スポット”特別教室”の関係性



既存の宿泊施設、空き家をリフォームによって活用し、”既に町にあるもの”を利用した宿泊システムを計画する。これらが、自然の学校における活動拠点”教室”となる。また、以前から町で行われている民泊をこの計画でも積極的に取り入れ、活動拠点の確保と同時に町内での交流の活性化も図る。その他にも、県外客が食材や生活必需品などを町の商業施設で買い求めることで、町全体に利益を生み出すことができ、地方活性化にも繋がる。

02 ワーケーションを見込んだ拠点計画

教室計画におけるポイント

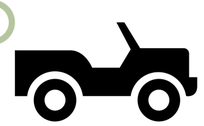


空き家のリフォームにおける間取りの計画では、県外客の中期から長期の滞在を見込んだ配慮が必要であった。ワーケーションなどのオンライン業務に対応できる多目的ワークスペースや地域住民と活動者（観光客）の交流を図るための客室的な室（誰でも自由に立ち寄り利用できる）を取り入れ、その他風景を活かした開口計画などを行い訪れやすく親しみやすい教室に計画を行なった。

03 町内を巡る交通手段

特別教室へのアクセス

閉鎖的で自然の空気を感じられない

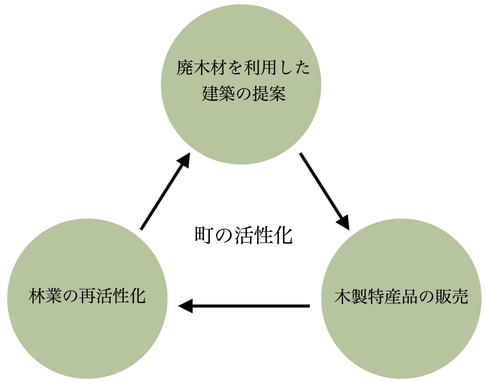


移動中も自然の空気を感じることができる

町には交通機関が少なく、交通手段の問題は活性化における大きな課題であった。そこで、２つの交通手段の計画を行なった。１つは、電動自転車の貸し出しである。移動中も自然の空気を肌で感じながら安芸太田町を楽しむことができる。もう１つはテーマパークなどでみられるヴィークルやオムニバスのような開放型バスの運行である。体力を消耗せずに各教室と特別教室を巡ることができる、幅広い年齢層向けの交通手段となる。

04 町のものを利用する

サスティナブルなデザイン



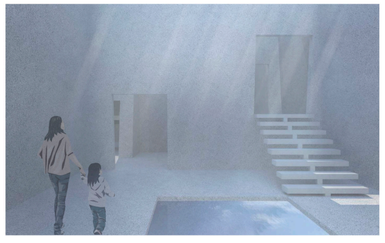
持続可能なデザインを目指し、建築には極力地域の廃木材を再利用することで、自然を学び、自然を守る町をつくり上げる。また、町にある伝統的な手工芸店や林業が盛んであったことなどを活かし、自然豊かな町ならではの木製特産品を販売することで、町の文化の拡散と活性化を図る。

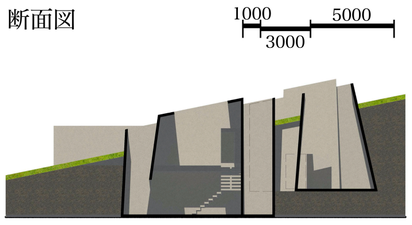
特別教室の計画

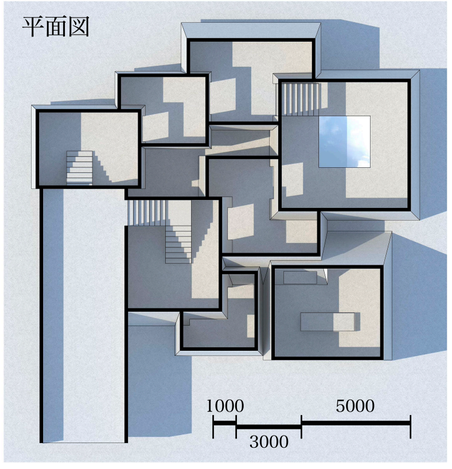
A.　ときを映す理科室

計画地：深入山

山は”理科”の集まりである。動植物、そして変わりゆく天候、星々をはじめとした天体など、この場所に長時間滞在できる施設を計画することで、多くの”理科”をより深く感じることができる。この理科室は時間によって表情が変化し、この場所だけの”ときを映す”施設である。内部には高さや大きさの違う躯体によって様々な形の光と影が現れ、上部には躯体によって写真のようにフレーム化され切り取られた空が映し出される。外見は出来るだけ山肌に埋め込ませ、自然と一体化した建築にすることで、山の持つ景観美を建築によってできる限り壊してしまわぬよう配慮した。







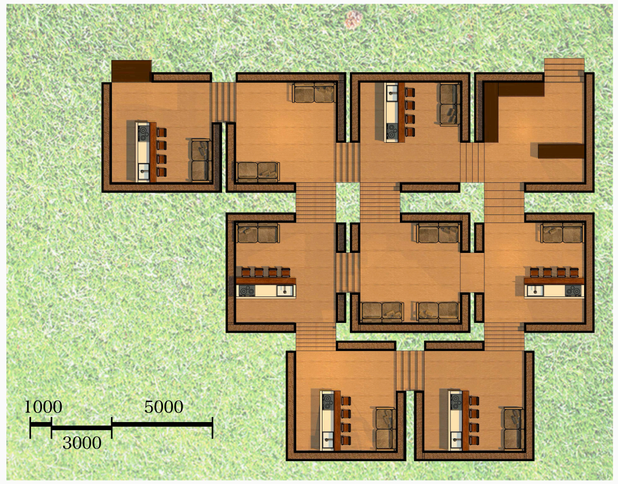
B.　重なる家庭科室

計画地：井仁の棚田

この施設は味覚を通してこの場所の自然を深化させる施設である。重なり合うデッキ一つ一つには、公共ダイニングキッチンが設けられており、地元の野菜をこの場所で調理し、食べることができる。また、できるだけ景観の邪魔にならないよう敷地勾配に沿って建築を計画することで自然環境にも配慮した。この建築が表現する”重なり”は建築そのものの見た目だけではない。この地で育てられた作物や味、地元の人々や観光客、美しい景観、手料理をはじめとしたこの地に伝わる文化などこの場所のあらゆるものとも建築を通して触れ合い”重なり合う”ことができる。

立面図

屋根伏せ図

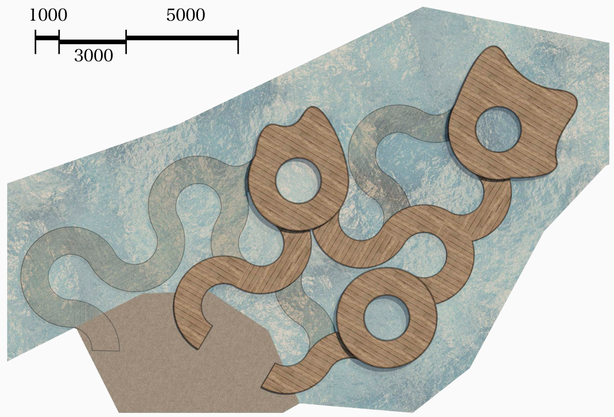


C.　漂う保健室

計画地：三段峡

水には視覚、聴覚、触覚的なリラックス効果があると言われている。また、森林の持つ鮮やかな緑の景色は人の目を保養する効果があるとされ、野生動物の鳴き声や森の音、香りなどもまた人に安らぎを与える。そんな安らぎが集まるこの場所はまさに、自然の保健室と言い換えることができる。心や体を休め、ゆっくりと自然を感じる場所をつくり上げる事で、自然の持つ”心の安定剤”といった真の魅力を引き出すことを目的に計画を行なった。形のデザインは光が揺らめく水面や水影の曲線から着想を得た。この船乗り場は任意の場所で靴を脱ぎ、水面下に沈んだ道を歩いたり、道端に座り足湯のように川に足を入れることで実際に肌で川を感じることができる。部分的に道を水面へ沈ませることで露出を減らし、自然に溶け込むようデザインした。

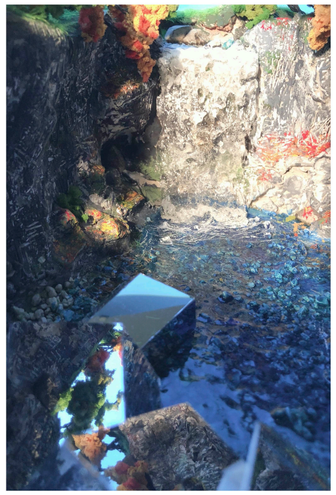
屋根伏せ図



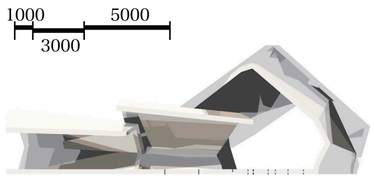
D.　音と水を浴びる音楽室

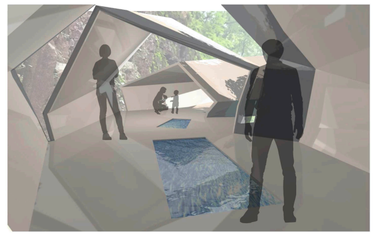
計画地：三段峡

滝の発する音の周波数は1/fノイズと呼ばれており、人の心拍の間隔と同じであるため心に安定をもたらす効果があるといわれている。この場所には、自然の音楽室としてこの場所だけの自然の音を肌で感じながら自然と触れ合うことができる施設を計画した。滝の音を”浴びる”空間を提案するために、音を集めるような建造物をデザインした。4つに分かれた各躯体はそれぞれ木材、コンクリートと違った材料を使用しており、材の響き方の違いによって建築の中を進むごとに違った音を楽しむことができる。外からの景観は、鏡面仕上げにより、三段峡の美しい風景に溶け込むようなデザインとなっているため、自然の景観を壊さず、周囲の景色と共に冬は雪の白、秋は紅葉の赤と四季折々色彩を変化させる。

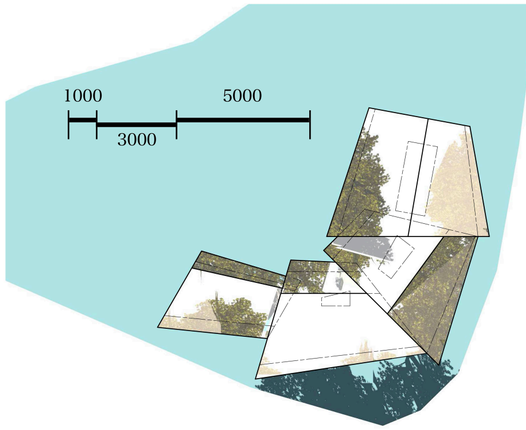


断面図



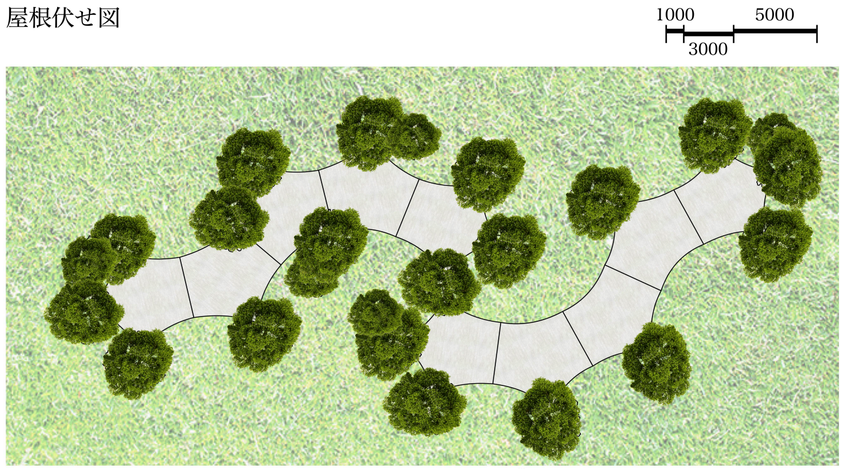


屋根伏せ図



E.　包み込む図書室

計画地：龍頭峡

森は人々を包み込む空間である。この包み込むというキーワードから、ハンモックやテントのような布を使った空間の提案を行った。この施設は本を読みながら自然の空気を味わい、自然の優しさや布、本の世界感に包み込まれながら、お気に入りの本と共に安らぎの時間を過ごすことができる。また、この場所は道の駅や町役場のある場所から距離がそこまで離れていないため、現在の安芸太田町には十分に存在していない学生の集まるスペースとしても活用することが可能である。構造体には基本的にこの場所に自生している木を利用し、木と木を伝うように布を張り巡らせることで、既存の自然を利用した計画とする。

屋根伏せ図